

ダニエル書 - 第百九十一番

ダニエル書11章の預言的タペストリー：トランプ時代の複雑な諸相と日曜法への序章を解き明かす

Jeff Pippenger

2024-04-21

正しく理解すれば、ダニエル書11章の10節から23節はすべて、同章40節の隠された歴史と一致している。40節は、1989年から41節に至るまでの歴史で構成されている。11章の1節と2節は1989年に始まり、2015年のドナルド・トランプの最初の大統領選挙運動から、無神論の獣によって選挙がトランプから盗まれた2020年までを示している。これら二つの節は、トランプが「グレシアの全領域を奮い立たせる」ときに始まる闘いを示している。

トランプの選挙運動は、彼の最初の大統領任期を通じて続く闘争を始めた。下院は2019年12月に彼を弾劾し、その後2020年1月13日にも再び弾劾した。どちらの場合も、上院は下院の試みを退けた。それでも彼は、アメリカ合衆国の歴史で二度弾劾された唯一の大統領である。グローバリズムは煽られていた。

今、あなたに真理を示そう。見よ、なおペルシャには三人の王が起こり、第四の者は彼らすべてよりはるかに富む者となる。彼はその富による力をもって、すべての者をギリシアの国に敵対するよう奮い立たせるであろう。ダニエル書 11:2

四十節と同様に、二節は、2021年1月20日に終結したトランプの最初の選挙戦と大統領一期目に関する秘史を残している。2021年のその日から、アレクサンダー大王が国連（聖書の預言における第七の王国）の象徴として提示される三節に至るまで、すなわち三者連合が確立される日曜法に至るまでの、2021年の就任式以降の歴史は秘史をなす。四十節と二節の秘史はいずれも日曜法に向かって進み、そこで完結する。

十節は、一節と同様に、1989年の終わりの時へと私たちを再び導き、両者とも四十節における実際の証言の結末を指し示している。ただし、四十節での結末と、間もなく到来する日曜法との間には、なお歴史が残されている。1989年を指し示すだけでなく、十節は、四十節の歴史を証言する三つの証人を結び合わせる鍵となる。それは、1989年にソビエト連邦を一掃するにあたって、教皇制とその代理勢力であるアメリカ合衆国が行った働きを補完するものである。これら三つの証人は、1989年から日曜法に至るまでの四十節の予言的構造における重要な要素を確立する。

北の王と南の王の間の戦いに関する歴史的な預言の構造、すなわち北の王が氾濫して押し通るというものは、40節において、また10節にも見いだされる。

歴史的預言の構造は、北の王が南の王に対して「押し流して通り越す」という表現が、両方の節で同一のヘブライ語句であるという文法的証言によって裏づけられており、それはイザヤ書8章8節に見いだされる第三の証言でも同様である。

10節では、北の王は「必ず来て、押し流し、通り過ぎる」とあり、40節では、北の王は「押し流して通り越す」とある。イザヤ書8章8節では、北の王は「押し流して越えて行く

」とある。これら三つの表現はいずれも同一のヘブライ語で、意味は同じだが訳し方がわずかに異なる。10節の南の王はプトレマイオス朝のエジプトであったが、40節では南の王は霊的なエジプト、すなわち無神論の王であるソビエト連邦であり、イザヤ書では南の王は南王国であるユダであった。それぞれ、北の王はセレウコス朝、次いで教皇権、そしてイザヤ書ではアッシリアであった。

対応する三つの節のうち二つでは、北の王の侵攻がどこで終わるのが明確に特定されている。10節ではそれは「とりで」で終わっており、これはセレウコス朝がエジプトの国境で遠征を終えたときに歴史的に成就した。というのも、預言の言葉は、北の王が「必ずや来て、あふれ、通り過ぎる。やがて彼は帰り、奮い立って、自分のとりでにまで至る」と述べているからである。「とりで」は、彼らの王国の首都であったエジプトを表していた。

イザヤ書8章では、セナケリブは「ユダを通り抜け、あふれ広がって押し進み、首にまで達する」と書かれている。「首都」「王」「頭」はすべて相互に置き換え可能な象徴であり、セナケリブがエルサレムに攻め上ったまさにその箇所で、二人の証人によって確立されている。

アラムの頭はダマスコ、ダマスコの頭はレツィン。六十五年のうちにエフライムは打ち砕かれて、もはや民ではなくなる。エフライムの頭はサマリヤ、サマリヤの頭はレマリヤの子。もしあなたがたが信じなければ、必ず堅く立つことはできない。イザヤ書7:8、9

シリアは国家で、ダマスカスは首都、レツィンは王であり、首都と王は互いに置き換え可能な象徴である。首都と王はどちらも「頭」である。セナケリブがユダの「首まで」攻め上ってきたとき、彼はエルサレムに来て止まった。というのも、「首」に支えられている「頭」のところで止まったからである。セレウコス朝がプトレマイオスに対して進軍したとき、彼らは「要塞」で止まり、この「要塞」とはエジプトという国のことである。

ダニエル書11章10節とイザヤ書8章8節は、イザヤ書7章8節と9節の文脈において、1989年にダニエル書11章40節の北の王が南の王を「押し流して通り越した」とき、頭、すなわち南の王国の首都であった国（ロシア）が立ち残ったことを証しする二人の証人となっている。

第十節の「要塞」は、現在のウクライナ戦争を特定する鍵であり、ロシアが勝利するという事実も示している。だが、この真理を確立する預言的適用は、ヒラム・エドソンに明らかにされ、1856年に『Review and Herald』誌の記事で公表されたまさに同じ聖句と直接つながっており、全面的にそれに基づいている。その記事は、レビ記26章の「七つの時」を指し示している。

2023年7月以来、ユダ族の獅子は、まさに同じ聖句から、北王国と南王国に対する二つの二千五百年の預言が、散らされる期間を示すだけでなく、神性と人性の結合を成し遂げるキリストの御業そのものをも示していることを明らかにしてきた。その啓示において、「頭」は人間の高次の本性であるとされている。「頭」は人間の神殿における「要塞」であり、ホワイト姉妹はそれを魂の城砦と呼んでいる。城砦とは要塞のことである。

それゆえ、ダニエル書11章10節の外的な「要塞」は、内的な「要塞」も表していることが確立された。2014年にウクライナでの戦争（外的）が始まったとき、「down under」とウェールズから来たサタンの教え（内的）がFuture for Americaの運動に侵入し、封印の過程はさらに一段階進んでいた。2020年までに、共和党とプロテスタントの両方の角が、私たちの主も十字架につけられたあの大きいなる都の街路で打ち倒された。

2020年、ドナルド・トランプは2度目の大統領選挙で敗れ、十人の乙女の「遅れる時」が到来した。2022年、トランプは正式に3度目の大統領選挙戦を開始し、彼が初めて勝利を収めた大統領選挙運動は彼の最後のものを表している。2023年には、「荒野からの声」が死んで干からびた骨に語りかけ始めた。

第13節から第15節は、プーチンによるウクライナ戦争の後の歴史を取り上げるが、その勝利は彼には利益をもたらさない。ロシアがナポレオン・ボナパルトの歴史を繰り返すからである。

ナポレオンの追放と結末は、ウジヤ王の追放と結末によって予表されていた。彼もまた軍事的勝利によって強められることはなく、さらに11節と12節のプトレマイオス4世を予表していた。両者とも軍事的勝利によって強められることはなかった。ウジヤとプトレマイオス4世はともに神殿で供え物をしようとし、いずれもそれを妨げられた。ウジヤ王はそれを行おうとしたとき、額にらい病を打たれた。彼の額のその印は、獣の刻印を表すだけでなく、1989年の南の王の最初の王をも予表していた。彼（ゴルバチョフ）は、国際連合の一部となるためにソ連を離れたとき、同じく一種の追放状態に入った。ウジヤ王と同様、ゴルバチョフの額にも顕著な印があった。ウジヤ王、プトレマイオス4世、ナポレオン、そしてゴルバチョフは皆、プーチンの終わりを予表している。この四者はいずれも、それぞれの特定の王朝を終わらせた南の王であり、それがプーチンのロシアの終焉を予表している。

そして十三節から十五節は、紀元前200年に始まった証しを明らかにし、共和党の角を表すドナルド・トランプの第三にして最後の任期を型どっている。十四節は、教皇制がツロの淫婦として自らの姦淫の歌を歌い始める時を示し、十五節は、背教したプロテスタントの角の系譜をマカバイの歴史と同定する。これら三つの節には三つの預言的な系譜が含まれている。

マカバイの歴史は、2節の終わりから3節へ、また40節の終わりから41節へと至る箇所のように隠されてはいないが、その筋道は少なくとも初見では不明瞭である。とはいえ、そのやや曖昧な預言史において、ユダヤ人とローマの同盟が示されており、それが獣の像の形成を明らかにしている。獣の像の形成は、ダニエル書第2章の隠された歴史にも型として示されている。そこでは、ネブカドネザルが夢を見たが思い出せず、ダニエルは死の脅しのもと、夢そのものを知らされないまま解き明かすことを求められた。第2章におけるダニエルと三人の勇士の祈りは、ダニエル書第9章の内的変容のための祈りを補完する、外的な光を求める祈りを表している。

マカベア家の系譜は、ダニエル書2章の隠された奥義と一致している。ダニエル書2章の奥義は、「七つに属する第八の者」という預言の謎に対する最初の預言的証言を提供し、それは黙示録11章における二人の証人の復活の啓示に寄与する。七つに属する第八の者と

結びついた二人の証人の復活は、ミラー派と十四万四千人の並行する歴史において、ミラー派が逆方向にラオデキアへ移行することが、十四万四千人がラオデキアからフィラデルフィアへ移行することと一致していることを確認する。

マカバイの難解な系譜とネブカドネザルの隠された夢は、いずれも2023年に二人の証人の復活の過程が始まった後まで、特別に封印されていた。それらの封印が解かれるのは「大地震」の時の直前であり、その時はセブンスデー・アドベンチストに対する恩恵期間の終わりを画する。神の印を受ける前、また恩恵期間が閉じる前に、そのアドベンチストたちが乗り越えなければならない試練は、獣の像の形成に関わる試練である。

マカバイ家の系譜、ネブカドネツアルの隠された夢、「七に属しながら八である」という謎、そして地の獣の二本の角——これらはすべて、獣の像が形作られるときに遂行される試しの過程に寄与している。これらの筋を、何らかの預言的な意味で「隠された真理」であると認めることこそが、それらが現在ユダ族の獅子によって封印を解かれつつある真理であることの証明となる。

黙示録13章の地からの獣における、共和主義とプロテスタントという二本の角を表す二人の証人の正体の封印が解かれ、しかも各角が互いに並行しており、また各角が内に二重の性質を有するという真理が伴うことは、イエス・キリストの黙示の封印が解かれ始めることを告げる。解かれた真理には、七つの雷の秘められた歴史の封印を解くこと、そしてヘブライ語の「真理」という語の定義も含まれる。

七つの雷の最後の期が、第一の失望の三つの道標を表し、その後に真夜中の叫びのメッセージが続き、そして大失望で締めくくられるものと認識されたとき、ヘブライ語の「真理」という語と一致するかたちで、日曜法へと至る真夜中の叫びのメッセージの完全な成就である2020年7月18日を指し示す啓示が確立された。

七つの雷は、2023年7月以前には、第一の天使の運動と第三の天使の運動の並行する歴史として特定されていたが、最終の三段階の期間は、その時点では七つの雷として表される特定の期間とは見なされていなかった。今やその認識は「真理」として確立されている。

イエス・キリストの啓示は、恩恵期間が閉じる直前に封印が解かれ、黙示録十一章の二人の証人を含んでいる。イエス・キリストの啓示には、七つの雷の隠された歴史が含まれている。イエス・キリストの啓示にはまた、「八番目は七つに属する」という謎が含まれており、それはミラライトがラオデキアへと移行することを明らかにし、これと並行して十四万四千人がフィラデルフィアへと移行することをも明らかにする。「七つに属する八番目」はまた、獣の像の試練に関する預言的表現でもある。というのは、共和主義とプロテスタント主義という両方の角は、共和主義の角が政治的な獣の像を生み出すときに結末を迎えるからであり、これに対して、またこれと論争しつつ、真のプロテスタントの角はキリストの像を形づくり、彼らは旗印として高く掲げられるからである。

これらの真理は2023年7月末に封印が解かれ始め、これらすべての真理は、隠された歴史において成就する預言的歴史を表している。すなわち、それは「終わりの日々に関わるダニエル書の預言の一部分」である。

したがって、1989年の終わりの時から第四十一節の「日曜法」に至るまでの、第四十節の隠れた歴史の予言的構造を私たちは持っており、そこにダニエル書十一章一～二節を重ね合わせることができる。次に、同じ線上に十～十五節も配置できる。さらに、正しく理解すれば十三節に始まり二十三節まで続くマカベヤの流れも、同じ線上に置くことができる。また、黙示録十一章七～十二節の二人の証人の流れも、同じ線上に置くことができる。ダニエルと黙示録という二人の証人によって、私たちは第四十節の隠れた歴史の構造を得ることができる。

1989年、教皇権とその代理軍であるアメリカ合衆国の同盟によって、ソビエト連邦は一掃された。ゴルバチョフによってソビエト連邦が解体されたとき、十四万四千人にとっての終わりの時が到来した。ロナルド・レーガンは、終わりの時におけるアメリカ合衆国の最初の預言的な王であり、ダリウス王に象徴される背教したプロテスタントの共和党员であるレーガンの後には、キュロスが続き、さらに三人の王、ついで四番目の富める王が続いた。

キュロス王は最初のブッシュを表しており、彼の後には民主党のグローバリストであるクリントンが続き、その後には共和党员であると公言するグローバリストである最後のブッシュが続き、その後にはイスラム教徒の民主党のグローバリストであるオバマが続き、そして彼らの中で最も裕福な大統領であり、背教したプロテスタントの共和党员であるドナルド・トランプが続いた。

2014年、ロシアとローマ教皇庁のナチの代理軍との間でウクライナ戦争が始まり、教皇庁のかつての代理軍である米国がウクライナの代理軍を支援した。2014年には、フューチャー・フォー・アメリカの運動が竜の代表者たちによる潜入を受け、2015年には、ドナルド・トランプが、のちに成し遂げる三度の大統領選挙戦のうち最初のを開始した。彼は最初の選挙戦で勝利したが、二度目の選挙戦は盗まれ、最後の選挙戦では再び勝利するだろう。2020年には、選挙が盗まれたために共和党の角が致命的な傷を受け、また真のプロテスタントの角も、2014年に始まった浸透によって一部もたらされた誤った予言を宣言したため、致命的な傷を受けた。その浸透は、さまざまな偽の予言的適用を導入することでメッセージを盗んだ。

2020年、選挙と預言的メッセージが奪われ、竜の代表者たちによって両の角が象徴的に打ち倒された。選挙は、共和党员を自称するグローバリストとグローバリストの民主党員からなる二重の同盟によって、グローバリストのプロパガンダ・メディアとグローバリストの商人たちの支援のもとに、盗まれた。メッセージは、ダウンアンダーから来た小柄な未婚の女の子と、ウェールズから来た小柄な離婚歴のある男の子によって盗まれた。彼らの隠されたアジェンダは、ゲイのアジェンダを導入し推進し、「罪の人」に謝罪することだった。フューチャー・フォー・アメリカの指導者は、このサタンの浸透に対するすべての責任を負う。彼には運動を守る責任があったが、聖別されていない使者たちが指導的地位につくことをあまりにも進んで許してしまったからである。ドナルド・トランプは盗まれた選挙について責任がある。というのも、彼が権力の中枢の側近として受け入れることを選んだ者たちが、彼が引き受けた仕事を意図的に弱体化させていたからである。

2022年、ドナルド・トランプは3度目の選挙運動を開始し、2023年には「荒野で叫ぶ声」が教会に向けてメッセージを発し始めた。最近、「石」（私の定義では「現在の真理」の外にいる者が叫ぶ存在のこと）であり、今日の公共の場の政治環境においておそらく最も鋭い知性の持ち主が、非常に洞察に富む真実をいくつか述べた。彼の名はヴィクター・デイヴィス・ハンソンであり、もしあなたが身の回りで起きている出来事を追い、それらの出来事を御言葉の予言と照らし合わせているなら、ヴィクター・デイヴィス・ハンソンは、あなたが願わくは学んでいるそのメッセージを反響している「石」の一人である。

神は、私たちの周囲で起こっている出来事を学び、それらを神のみ言葉の予言と照らし合わせるよう望んでおられる。そうすることで、私たちは自分が終わりの時代に生きていることを理解できる。私たちには聖書が必要であり、その中に何が書かれているのかを知りたい。予言を熱心に学ぶ者は、真理の明確な啓示によって報われる。イエスは「あなたのみ言葉は真理です」と言われたからである。『Signs of the Times』1894年10月1日。

X.comで@FreyjaTarteが投稿したインタビューで、ハンソンはまず「彼ら〔民主党員〕はトランプを吸血鬼と見ている」と述べた。彼は続けて、ドナルド・トランプが再び当選することへの民主党側の恐れに言及した。私は、黙示録第11章によればトランプが（吸血鬼として）復活し、そのときには彼の死をかつて喜んだ者たちが恐れることになる、ということを手がかりに理解していたと信じる理由はない。それにもかかわらず、彼のコメント全体がまさにそのことを指摘している。

三日半ののち、神からのいのちの霊が彼らのうちに入り、彼らは立ち上がった。彼らを見た者たちには大きな恐れが臨んだ。黙示録 11:11

次回の記事でこの研究を続けます。

私たちは、これらの聖句に預言されていた時代に到達した。終わりの時が来て、預言者たちの幻の封印は解かれ、彼らの厳粛な警告は、私たちの主が栄光のうちに来られるのが間近であることを指し示している。

ユダヤ人は神の言葉を曲解し、誤用し、神の訪れの時を知らなかった。キリストとその使徒たちの宣教の年月——選民にとっての、恵みの最後の尊い年月——を、彼らは主の使者たちを滅ぼす陰謀を巡らすことに費やした。地上的な野心に心を奪われ、霊的な御国の申し出は彼らのもとに空しく終わった。今日でも、この世の国が人々の思いを占め、急速に成就しつつある預言や、神の御国が速やかに来ようとしているしるしに心を留めない。

「しかし、兄弟たちよ、あなたがたは暗闇の中にいないのですから、その日が盗人のようにあなたがたを襲うことはありません。あなたがたは皆、光の子、昼の子です。私たちは夜にも暗闇にも属してはいません。」私たちは主の再臨の時は知らされていませんが、その近いことは知ることができます。「だから、ほかの者たちのように眠らず、目を覚まして慎み深くしていきましょう。」テサロニケ人への第一の手紙5章4-6節。『時代の望み』235頁。